

総 合 所 見

- 1 インドネシア側との協議結果

(1) 我が方からの協力内容案についての協議

- 1) 調査団から別紙の協力内容案(プロジェクトの概念図 - 2 枚組み)に基づいて説明を行った。本件実証調査の仕組み、性格、及びプロジェクトの目的、調査内容については、おおむねインドネシア側(林業農園省林業農園研究開発庁、付属資料2)の理解が得られた。
- 2) 試験候補地については、実証調査としての適正な規模を設定し、適正な運営管理(予算面での制約を含む)を図る必要があること、また、実証調査の実施にあたっては、ボゴールにあるインドネシア側カウンターパート機関との密接な連携を図る必要があることから、サイト候補地をボゴールのある西ジャワ州内に絞って選定したい旨説明し、インドネシア側の了解を得た。
- 3) 林業農園研究開発庁ウントゥン長官から、既存の JICA プロジェクト等との連携・協力(特に林木育種プロジェクトからの苗木の調達など)に配慮してほしいとの要望が出されている。
- 4) インドネシア側との協議結果及び現地調査の結果については、団長レター(付属資料1)の形で取りまとめウントゥン長官に手交した。

- 2 現地調査結果及び試験候補地の選定

(1) インドネシア側より試験候補地の提示

インドネシア側からの基本的な合意を得た後、インドネシア側より5か所の調査候補地の提示があった。

ボゴール営林署ルイリアン支所 15A 林班(西ジャワ州ボゴール県)

ボゴール営林署ルイリアン支所 19C 林班(西ジャワ州ボゴール県)

ボゴール営林署ジャシンガ支所 19A, B 林班(西ジャワ州ボゴール県)

ボゴール営林署パルンパンジャン支所 9D 林班(西ジャワ州ボゴール県)

チアンジュール営林署北チアンジュール支所 5A 林班等(西ジャワ州チアンジュール県)

(2) 試験候補地について

試験候補地(既存林地試験区及び木炭施用実験区)について、西ジャワ州に設定することについては、我が方より、実証調査としての適正な規模を設定し、適正な運営管理(予算面での制約を含む)を図る必要があること、また、実証調査の実施にあたっては、ボゴールにあるインドネシア側カウンターパート機関との密接な連携を図る必要があることから、ボゴールのある西ジャワ州内に絞って選定したい旨説明したところである。

一方、インドネシア側からも本件実施に対する期待が大きく、カウンターパート機関も積極的に取り組む姿勢を示しており、同機関との共同調査が容易なボゴールのある西ジャワ州に試験候補地を設定することに異論はなく、特に林業農園研究開発庁ウントゥン長官に団長レターを手交した際には、炭素固定に関するプロジェクトに対しては、国内外の関心が高く、様々な関係者の訪問が可能なボゴール周辺に試験候補地を設定することは意義深い旨の発言があった。

(3) 現地調査の結果

以上の結果を総合的に検討した結果、本件の調査、試験地候補地を次の3地域に絞り込んだ。

ボゴール営林署ルイリアン支所 PETAK15A 林班(対象樹種: メランティ)

ボゴール営林署ルイリアン支所 PETAK19C 林班(対象樹種: メルクシマツ)

ボゴール営林署パルンパンジャン支所 PETAK9D 林班(対象樹種: アカシアマンギウム)

- 3 その他

インドネシア支援国会合(CGI)において、現在インドネシア国内の違法伐採による森林焼失の深刻化等により、林業(森林保全)が重要課題となっている。インドネシアは本年2月の会合において8項目をあげて森林保全を宣言しており、来る10月に東京で行われる予定の次回CGIにおいてその改善状況を報告することになっている。本件現地実証調査の実施は、インドネシアにおける森林保全事業への取り組みに貢献するものとする。